

# 長野駅善光寺口駅前広場および大庇・列柱の 利活用方針

平成24年10月23日

長野駅善光寺口利活用ネットワーク

## はじめに

市民と行政の協働組織として設立した長野駅善光寺口利活用ネットワーク（以下、当会）では、メンバーのワークショップや事例研究、視察、現地調査などを行い、長野駅善光寺口駅前広場（以下、駅前広場）および大庇・列柱、関連施設の利活用や運営体制などについて『長野駅善光寺口広場および大庇・列柱の利活用方針』（以下、本書）をとりまとめた。

本書は、当会の今後の活動や運営方法等について展望するとともに、関係機関とも方針を共有しつつ、今後の活動がより円滑に持続的に推進できるように関係機関の事業推進に際しての参考となることを希望するものである。本書に記載した提案は、第2回ビジョン委員会（平成24年10月23日）時点でとりまとめたものである。今後はこの提案を発展させながら活動を具体化していく方針である。

平成24年10月23日

長野駅善光寺口利活用ネットワーク  
会長 松岡 保正

## 1. グランドデザインについての活動方針

駅前広場とその導入部であり背景ともなる大庇・列柱は、長野らしさ、信州らしさをアピールできる空間であり、来訪者にとってもその期待感は大きい。

これまでの検討では、JR長野駅が長野県の玄関口となるポテンシャルから広域的なデザインコンセプトを担わなければならないと錯覚されがちであるが、むしろ長野市域であるとか中央通り、善光寺門前といった少し狭域のイメージから具体像を展望することが近道ではないか、との方向性を提唱したい。

このことは、決して善光寺平（長野盆地）であるとか、長野広域圏域、ひいては長野県的な広域イメージにとってもマイナスとなる要素ではないと考えられる。むしろ、駅、駅前広場、中央通り、善光寺、その周辺へと周遊するうえでのイメージの統一感にとって合理的である。

当会では、長野らしさ、信州らしさの具体的なデザインプランを今後もワークショップ等を継続的に開催しながら、引き続き検討していく計画である。また、工事期間中であっても仮設構造物、仮設サイン、コンテナガーデンなどによって、社会実験的なテストを行うことも可能であり、市民参加と合意形成も意識しつつ効果的な手法を探っていきたい。

## 2. 駅前広場におけるエコ・グリーンについての活動方針

### (1) 植栽種および植栽方法

長野市の雰囲気を感じさせるような、里山などでみられる身近な植物を基調としたい。ただし、駅前広場は日射、熱射が強烈であることから、乾燥・日照・寒風などに対する耐性の強いものにする必要がある。このため、園芸種の導入も視野に入れたい。

高木だけでなく、中木・低木、地被植物（グランドカバー）を組み合わせるなど、配植も工夫したい。宿根草をできるだけ取り入れることでメンテナンスを軽減し、アクセントに一年草を用いるなど、季節感や彩りのバリエーションも豊かにして、狭い空間ながらも個性的なガーデン空間を具現化していきたい。

このような植栽方法が、長野市内の公共緑化のモデル、見本となるような役割をもたせたい。

### (2) シンボルツリー（別図参照）

長野らしさを具現化する意味でもシンボルツリーを植栽したい。広場の形状や利用想定から、シンボルツリーは1本程度しか植えることができないが、樹形の整った大きめの枝張りの樹木を選定したい。樹種等については、今後のワークショップで決めていきたい。

### (3) 運営体制

樹木などの植物や重量のある石材、構造物、舗装などは、広場建設と一体的に工事として製作されることが望ましいが、草花や苗木の植え付けやメンテナンスはメンバーが中心となった市民参加を基本としていきたい。特に、専門家の指導やながの緑育協会、長野市緑と花いっぱい会などの関係団体と連携、学校機関との連携による子供たちの参加なども検討していく。

日常管理は、水やりや花がら摘み、ごみ拾いなどが必須となる。こうした作業は早朝に行うことが常であることから、ボランティアスタッフの確保、現場での休憩スペースの確保なども具体化したい。また、こうしたボランティアは来訪者や駅利用者とのコミュニケーションがとりやすく、ホスピタリティのイメージアップにもつながる。さらに観光ボランティア的な役割も想定しておく必要があり、人材確保に併せて人材の育成が欠かせない。

また季節に応じたリニューアルなどはイベントとして開催可能であるほか、コンテナガーデンやハンギングバスケットなどの講習会やコンテストも企画することができる。

こうした活動を主体的に企画・運営し、ボランティアを支援する常勤スタッフの存在が欠かせず、その詰所スペースを確保したいと考えている。

### (4) 今後の進め方

エコ・グリーンについては、植栽の種類や配植などをより具体化していきたいので、専門的なアドバイザーの支援・監修を受けながら、今後もワークショップなどに取り組みたいと考えている。

## 3. 大庇・列柱での設（しつら）えについての活動方針

長野市内では、善光寺御開帳・オープニングイベントなどのような集客力の大きなイベントが複数年ごとに開催される。こうした来場者の多いイベント期間と連動した装飾が必要と考えられる。

また、季節ごとの賑わいや、市民によるアート活動など、大庇・列柱の回廊空間を利用した年に何度か開催できるような装飾もイベントとして企画運営することも想定できる。

設えについては、装飾や関連装置のデザインをより具体化していきたいので、専門的なアドバイザーや教育機関などの支援・監修を受けながら、今後もワークショップなどに取り組みたいと考えている。かなりの費用や人材が必要となるため、実現可能性についても検討しておく必要がある。大イベント時対応だけでなく、日常的な利用ニーズも発掘し、市民参加ができる可能性や企業の参画などの多様な活用方策も探していきたい。

#### 4. イベント

当会での企画・運営する直営型のイベントや、イベント運営支援を要請された場合のサポートなど、イベント運営全般については今後のワークショップなどにより具体化していきたい。

これまで駅前広場を利用していた団体との競合を避けることを原則とし、より多くの市民が活用できるような方策を具体化していくものとする。

これまでの検討では、カギの貸出しや水道・電気・放送設備の利便性向上、占用申請や利用申込みの合理化などが当会の活動に求められるポイントと考えられ、そのためにはエコ・グリーンの活動と連動した常勤スタッフの確保や詰所スペースが必要不可欠であると考えている。

2015年春の広場、大庇・列柱の供用に合わせたオープニングセレモニーを想定しつつ、それまでのプレイベントも企画・運営していきたい。これは、当会の参加者をより拡大しつつ、利用ニーズの啓発に取り組むものであるが、同時にイベント開催に必要な人材確保や人材育成、経験・技術の蓄積などの実現にもつながるものである。

プレイベントのイメージ例

- ・利用する市産木材の産地見学
- ・寄付金（オーナー）募集 ネームプレートの掲示、「大庇・列柱」の愛称募集
- ・コンテナガーデン（プランタ）を用いた参加呼掛け
- ・仮設構造物ワークショップ、仮設サインづくり
- ・仮囲いを使ったアートペイント、当会のイベント告知コーナー

#### 5. 持続的な活動のための具体案

これまでまとめてきたような当会の活動が、市民と行政の協働によって継続し、スムーズに運営されていくために必要と思われる施設等の具体案をまとめる。

##### （1）駅前広場（別図参照）

エコ・グリーン活動やメンテナンス、イベントを実施するために望まれる設備を列举する。

- ・散水栓：市販のホースの接続を前提に、ホースが植栽をカバーできる半径20m程度以内を目安に、利用が容易で、かつ利用者の支障にならない配置。
- ・給水（散水）栓：広場でのイベント利用、コンテナガーデンを想定し、通常は植栽のない広場部分でもハンドホール（柵）式の給水設備を備える。
- ・雨水貯留：バスシェルターなどの屋根の樋から雨水を導水し、暗渠によって雨水貯留タンクへと貯留する。利用のための手動ポンプを備える。資源の有効利用をアピールし

たい。

- ・自動散水装置：水道水を用いた自動散水装置を備え、日常のメンテナンスを軽減する。  
なお、できるだけ電源は自然エネルギーとしたい。
  - ・排水弁：広場部では、ハンドホール（柵）式のイベント利用のための排水口を設ける。
  - ・電源（コンセント）：植栽管理やイベントでの電源が必要である。コンセントから配線を伸ばしすぎると利用者の支障になることから、適切な配置でコンセントを設ける。
  - ・弱電設備：放送や電話などの情報ツールの利便性を高める。
  - ・音響設備：イベントを開催しやすくするために音響設備を設ける。
  - ・用具収納：スコップ、移植ごて、はさみ類、バケツ、ジョウロなど、園芸用の道具や資材を収納できるスペースが必要となる。収納型のベンチも有効である。
  - ・ゴミ収納：枝葉などの園芸ゴミを目立たないように一時的にストックしておき、収集してもらえるスペースが必要である。
  - ・資材置き場、バックヤード：園芸用土や肥料など袋で購入する場合のストックヤード、メンテナンスの準備作業などで下準備を行うバックヤードが必要である。
  - ・駐車スペース：早朝の作業であることから、市内のボランティアが自家用車で来訪せざるを得ない場合が多く、作業時間を安心して駐車できるスペースが必要。また、資材や荷物の積み下ろしスペース（一時停車エリア）も確保する必要がある。
- 
- ・酷暑の時期などは熱中症対策、ヒートアイランド対策と涼しい長野のイメージアップから、バスシェルター庇においてミスト（霧）を発生させる装置を検討したい。
  - ・如是姫像の池だけでなく、植栽スペースにおいて水鉢、噴水のようなシンボルを設けることも具体化を検討したい。
  - ・案内標識、サインは、駅前広場の機能上から必要不可欠であるが、サインを必要とする人への視認性、景観的な統一、多言語対応やユニバーサルデザインなどにも配慮する必要があるので、今後とも当会で具体化を検討したい。

## （２）大庇・列柱での設（しつら）え（別図参照）

### ・大庇（ルーバー部）

イベント時の吊り下げ装飾のため、フックを設けておく。

通常の設定では、位置的に高所作業車による作業が基本となる。大空間を飾り付けるために、装飾も大型で重量もかなりになる可能性があり、作業効率を上げるためにも、仮設用にホイストクレーン（リモコンウインチ）を用いるなどの工夫が必要と考えられる。

クレーンの電源となるコンセントは、列柱上部・大庇接合部付近に設けておくことが必要で、これにより作業性も向上することができる。

### ・列柱

列柱にも提灯のような照明灯具などの架設を行うことができるように、メスネジを設けておき、必要にフックの取り付けができるようにしておく。このフックは、ルーバーから吊り下げた装飾の揺れ止めとなるワイヤー線の固定にも役立つ。

また、電源も必要となることから、カギ付きの小窓を設け、コンセントを備えるものとする。

できるだけ列柱のメスネジ数を減らし、かつ重量物の架設や着脱を容易にするために、アタッチメントも考案する必要がある。

#### ・その他

大庇上部構造にはハト、ムクドリ、ハクセキレイ等のねぐらとならないように侵入防止の方策を講じる必要がある。加えて広場部の構造物や樹木にも鳥類ねぐら対策を検討しておくことが必要と考えられる。

装飾物やアタッチメント、フックなど、かなりの数や大きさとなることが予想されるため、倉庫スペースが不可欠である。

## 6. 今後について

本書は、当会がスタートして最初に取り組んだ2回のワークショップの成果をとりまとめたものである。したがって、この方針は確定したものという性格ではなく、会員や関係機関などに広く縦覧され、引き続きご意見、ご感想、アイデアをいただいきたい。あわせて関係機関で関連事業を進めるにあたっての参考になれば幸いである。当会にとっては関係する情報等の提供や意見交換の場づくりに協力をお願いしたい。こうしたことにより今後とも活動方針は見直したり、試行しながら修正を加えていきたいと考えている。

今後は駅前広場および大庇・列柱を市民、市民団体、企業等と行政の協働によって活用されるように、ワークショップ等の手法も用いながら主体的な活動を継続的に行っていきたい。

以上